動画週刊誌「週刊西田」　西田昌司がズバッと答える一問一答

「竹中平蔵のような民間議員をなんとかできないんですか？」

平成 26 年 5 月 20 日

●シキさんからの質問

　ここ最近明らかに民間議員の影響を受けた政策を首相が検討に入るみたいなことをいいだしていますが竹中平蔵のような民間議員をなんとかできないんですか？選挙の洗礼も受けていないたかが民間議員より西田先生のほうが影響力はあるでしょうし、そもそもこのような民間議員を躾けるのは国会議員である西田先生のお仕事だと思うのですが。

●西田昌司の答え

　全くシキさんのおっしゃる通りですし、竹中さんを始めとした一部の民間議員に私は非常に警戒をしています。

　今やるべき政策は一にも二にもデフレ脱却ですが、その為にはデフレに陥った原因の考察が必要です。バブル崩壊後には国民が借金返済と銀行預金を増やして消費と投資（住宅投資、設備投資）を減らしますが、そうすると総需要が不足してデフレになります。総需要が不足しても供給能力が十分あるので物価が下がり、物価の下落が所得を縮小させ、所得の縮小が更なる物価下落を引き起こすという悪循環（デフレスパイラル）に突入します。よってデフレを解決するには需要を拡大せねばなりませんが、デフレ下では民間の需要は期待できませんので政府が需要を作り出さなければなりません。

　デフレ時は人件費を安く抑えられるので吉野家やすき家といった低価格を売りにするデフレ産業が流行ります。しかし、デフレから脱却して給料が上がってくると給料の高い業種の方に人が集まりますのでデフレ産業はもちません。現にワタミは人手不足解消を理由に居酒屋の 1 割に当たる 60 店を今

年度中に閉店すると発表しましたが、このニュースはデフレが終わりつつあることを告げていますし、「デフレ脱却」を第一に掲げたアベノミクスの方向性の正しさを実証しています。

竹中さんを始めとした一部の民間議員が主張する新自由主義的な政策が需要を減らしデフレを招いたわけですが、彼らは今「成長戦略には法人税減税が必要」と政府に働きかけています。企業経営者の立場からすると人件費と法人税を下げたいわけですが、彼らの話に耳を傾けると「人件費が上がってきたからその分だけ法人税を下げてほしい」と言っているとしか思えません。私は法人税減税については断固として反対しています。

今年に入ってから、トヨタを始め大企業を中心として「史上最高益更新」といった景気のいい報道に接します。かつてのバブル時代やリーマンショック前の好景気時と比べても収益を上げている会社が増えており、大企業は利益が十分に出てきているのですが、このような状況であれば政府の法人税の税収は本来増えなければなりません。そうなると財政健全化の方向にも進みますし、得た税収を政府がやるべき仕事への支出にも充てられるわけです。

現在は、高度経済成長を遂げたかつてのような民間需要は期待できないかもしれませんが、介護・医療等の公的な需要はどんどんと増えています。社会保障の分野だけでなく、安全保障体制をしっかりと整えたり、国土強靭化と言われるインフラ整備もせねばなりませんし、これらを充実させることは企業が安定経営を行う上でも不可欠ですが、これらの公的な仕事の予算措置には十分な税収が必要です。

但し、デフレ下の現在では企業が銀行からお金を借りないので銀行にお金が余っており、政府が国債を発行して民間銀行に引き受けさせることによって得た資金で仕事を発注すればよいのですが、将来的にはきちんと税収を確保できる仕組みが必要ですし、その為には国民負担率を上げることも検討せねばなりません。

このように政府が仕事を与えることにより企業の業績が上がって法人税の税収も増えますが、その税により再度仕事を発注すればさらに企業の業績が上って好循環が始まり失業率も低下します。政府がしっかりと税をとって仕事の発注という形で再配分することが経済を拡大させる一番の原動力になりますし、現在の日本のように民間企業が国内よりも海外に投資する状況下では国内空洞化を防ぐ為にも政府の役割は非常に重要です。

バブルの頃の法人税の税収は 19 兆円ありましたが現在は 10 兆円程度であり、バブルの頃よりも利益が出ている現在においてさらに法人税を下げるなどというのはあり得ません。経済界や学界において利権目当て（としか思えないのですが）に法人税減税を叫ぶ人が多いのは困ったものです。（ちなみに消費税は 1 %で約 2.7 兆円であり、10 %にすると 27 兆円程度の税収になります。）

私が指摘する以上の点について、安倍総理はしっかりと理解されていないのかもしれませんが、民間議員の意見をあまりに政策に反映してしまうとこれまでやってきたアベノミクスが台無しになってしまう恐れがあります。民間議員が自らの利益を狙った企業家目線の発言をするのはある意味当然かもしれませんが、国民を代表する我々国会議員は断じて彼らの自由にはさせません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 http://www.shukannishida.jp